

市所有施設の一部に第三セクター所有の固定資産 総額2億322万円。市は早急に是正すべきだ

市議会総務常任委員会並びに委員協議会が12日、行われました。私は、新幹線駅周辺まちづくり事業、自治総合センターのコミュニティ助成事業、第三セクターの固定資産所有などで質問しました。

このうち第三セクターの固定資産所有問題は今後の第三セクターの経営改善などを考えていくうえで重要な問題です。しかし、市当局はこの問題に本腰を入れてきませんでした。

実は、2年前の3月に、専門家の入った第三セクター経営検討委員会が経営分析報告書をまとめています。このなかで、「第三セクターの経営改善を推進する上で、解決・解消すべき共通の課題」として、「経営管理体制のせい弱

性」「民業圧迫の制約」などと並んで、「公の施設の一部として、指定管理者である第三セクター所有の固定資産があるなど、適正な固定資産の所有形態がとられていない」ことがあげられていたのです。

本来、市が所有しているならばならないのに第三セクターが所有しているとなれば、速やかに市の所有とすべく買い戻し等の手続きをとらなければなりません。すでに報告書が市に提出されてから2年以上も経過しています。

ところがこの間、報告書の指摘に基づいて改善されたという話は議会にも聞こえてきませんでした。そこで私は、適正でない所有実態が各第三セクターでどれだけあるのか、いつまでに改善していくかについて野口副市長や関係部課長に質問しました。

所有の適正化が求められている各第三セクターの固定資産がどれくらいになるかについて、池田行政改革推進課長は、「決算書の貸借対照表の固定資産額が目安になる」と答えました。会議後、調べたところ、総額で2億322万円ほどになります。一覧表を作成しましたので、別表をご覧ください。

第三セクターの有形固定資産保有状況 (単位：円)		
	決算期	有形固定資産
(有)やまざくら	H24.3	595,878
(財)あしんの里観光公社	H24.3	88,043
柿崎総合開発(株)	H24.3	23,196,369
(株)ゆったりの郷	H24.3	3,674,364
(株)大湯地域活性化センター	H24.3	2,146,524
(株)みなもとの郷	H24.3	4,974,394
黒倉ふるさと振興(株)	H24.3	12,043,089
(株)キューピットバレイ	H23.4	65,069,081
(株)ゆめ企画名立	H23.9	62,040,099
リフレ上越(株)	H23.12	27,032,606
三和振興(株)	H24.1	2,362,720
総合計		203,223,167



今後の方針について行政側は、「数値などは確認しているところだ。今後の方向性はきちつと出さねばならないと考えている」(野口副市長)。「だれがいつどういう判断でいまの状況になっているかという問題もある。速やかに整理していきたい」(土橋総務管理部長)と述べるにとどまりました。

質問の最後の段階で私は、「経営破たんした(株)あさひ荘についても報告書に基づいて早めの手を打っていただければ違った展開になったかもしれない。第三セクターは日々動いている。この問題は遅くとも9月議会までに改善を」と求めました。市当局は「速やかな整理」を約束したものの、具体的な期日まで示しませんでした。今後の動きに注目したいと思います。

吉川高等特別支援学校後援会設立

県立吉川高等特別支援学校後援会が8日、立ちあげられました。設立総会には柿崎、大湯、頸城、吉川区の町内会長連絡協議会長、まちづくり団体代表など約20人が集まりました。

総会では会長、副会長などの役員、平成24年度の事業計画、予算などを決めました。会長はまちづくり吉川の会長である小山正昭さん、副会長には旧吉川高校同窓会長の小林昭三さんが選出されました。学校行事の助成、職業指導の助成、会報の発行などを行うっていくことも確認されました。

小山正昭後援会長は、「生徒のみなさんは明るく元気に活動している。しっかり応援していきたい」とのべています。

同会には、旧吉川高校同窓会から50万円余りの寄付金が寄せられました。



【ウツギ】空木。ウノハナとも呼びます。吉川区米山地区にて10日撮影。

先日、近くの池まで行ってきました。初夏になり、周りの山はすっかり緑に覆われています。訪れた時間帯が夕方だったこともあったのでしようか、池をはさんだ反対側の山で鳴く小鳥たちの声が澄んで聞こえてきました。

晴れの天気が続いていたので、池の周りの道はよく乾いています。山裾の土砂が風化して崩れ落ちた「しもくずれ」の上を歩くと、もくもくした感じが靴の下から伝わってきます。

山裾の雑木林の中では、レンゲツツジがオレンジ色の花をそつと咲かせていました。池の側の土手にはハルジオンも咲いています。花はしほみがかっていましたが、夕日に照らされて、ピンク色が鮮やかです。あつ、白い花も見えました。あれはガマズミでしょう。

道を横断する細い溝に目を向けると、二センチほどの黒い虫が出てきました。たぶん、私の足音でびっくりして溝の外に出て様子を見ようとしたに違いありません。出てきて、私の大きな体を見て、さらに驚いたようです。大急ぎで溝の中に引っ込んでしまいました。

散歩をしていると、同じ道を歩いても必ず新しい発見があります。この日は、池の一番奥まったところまで歩いて行って、一瞬、動けなくなりました。私の目の前で、薄いピンク色の花のつぼみが大きくふくらんでいたのです。まさか、こんなところにもササユリがあるとは……。

ササユリは吉川区が生育の北限と聞いています。私がこれまで見かけた場所は同じ吉川区でもかなり南に位置する里山でした。六月に咲く野の花のなかでは一番大きい花を咲かせますが、ヤマユリよりはひと回り小さく、何とも言えない美しさをそなえています。私にとっては、一度出合ったら、毎年見てみたくなる野の花の一つです。

いまの時期、ヤマボウシが独特の形をした白い花をたくさん咲かせます。ササユリがあつた場所から百メートルほど歩くと、何本かのヤマボウシの木があります。ところが今年はどういうわけか、いくつも咲いていませんでした。花を見つけるにも大変なくらいです。一本の木にわずか一個しか咲いていないものもありました。これだと、今年の秋は赤いヤマボウシの実を食べることができないかも知れません。

この日は風がまったく吹いていませんでした。元の場所まで戻った時、池の中を見ると、水面は完ぺきなほど平らで、池を囲む木の姿を映し出していました。杉林は濃い緑、カエデやナラなどの雑木林はそれよりも明るい緑色です。しばらく池の中を見ていて、またもや、「おやつ」と思うことがあります。池の端っこに杉の枝が浮かんでいて、そこには白っぽいものが付着していたのです。

杉の枝についた白いものを見た瞬間、私は「鯉の卵」だと思いました。五〇年ほど前、わが家の「たね」（小さな池）の中には杉の枝が浮かばせてありました。浮かばせたのは、おそらく祖父、音治郎です。飼っていた鯉の産卵場所をつくってやったのです。卵が付着したのを見つけてからは、私は毎日のように、「たね」のなかの杉の枝を見に行きました。卵がかえつたのを見つけたときはうれしかったですね。

約一時間の散歩を終えて家に戻ったとき、気分は爽快でした。体を動かし、心を動かすものと出会った、そのことによって頭の中にさわやかなものが送り込まれたのでしよう、再び机に向かった私は一気に仕事を終わらせることができました。

板倉区国川、被災建物の撤去ほぼ終わる

3月の上旬、板倉区国川で大規模な地滑りが発生し、住家5、作業場4、車庫2の合計11棟が損壊したことはご案内の通りです。11日、久々にの地滑り現場を見てきました。すごい土砂の量です。妙高砂防事務所のデータによると、移動した土砂は幅150メートル、長さ400メートル、深さ20メートル、30万立方メートルにもなります。半端ではありません。

先月15日、市長が地滑り災害に伴う廃棄物処理費用、約2200万円を専決処分したことにより、21日から撤去作業が始まりました。現場ではすでに壊れた住宅、作業所などの建物部分の撤去作業は終わっていました。現在は、コンクリートのがれき撤去などの作業が行われています。11

日の厚生常任委員会での担当課の説明によると、廃棄物の量は約370トンで、資源化できないものは最終処分場に持っていくとのこと。また、大量の土砂の撤去については秋ごろを予定していると説明がありました。

住宅を失ったみなさんの住まいを今後どうするかですが、この日の委員会で山岸副市長は、「当初、被災者の方々はここでは住めないという気持ちが強かったようだが、同じ国川に集団移転するかなど話し合っている。いまの段階で、いつまでにどうするかは定まっていない」とのべました。

右の写真の真ん中上部が地滑り発生地点、手前の道路は県道三和新井線です。

